

令和6年度 第3回 丹波市立図書館協議会 会議録（要旨）

◇日 時：令和7年3月6日（木）

◇開 会：午前13時30分

◇閉 会：午後15時00分

◇会 場：丹波市立中央図書館

◇出席者：（会 長）畑田久祐

（委 員） 薦木伸一郎・由良ゆかり・伏田雅子・中岡恵美・上山未登利・
井上直志・細見能成

（社会教育・文化財課）小畠崇史・高見弘子・嶋崎美紀・古川徳晴

◇欠席者：（副会長）中澤利恵

1. 開 会

進行：丹波市教育委員会教育部社会教育・文化財課 課長 小畠崇史（以下、課長）

2. あいさつ

丹波市立図書館 館長 近藤利明（以下、館長）

3. 報告事項

以下の事項は、会長の進行による。

（1）令和6年度 丹波市立図書館事業取組状況について

①丹波市立図書館事業取組状況（事業実績）

資料1

（2）令和6年度 丹波市立図書館の利用状況について

①利用状況（図書）

資料2

①利用状況（電子図書）

資料3

説明：図書館係 係長 高見弘子（以下、係長）

委員

資料2－2. 図書館の利用者人数は何を指しているのか。

係長

貸出のみカウントしている。

委員

事務局でこの数字から課題や考えられる原因などはあるのか。

係長

分析はできていないが、全体的に数字が下がっている。

委員

今年度は視聴覚資料があがっているのか。コンテンツの種類によるのか。月によっては2桁台に下がっているときもある。

係長

中央図書館では、今年度 VHS で持っていた視聴覚資料を DVD に買い替えを進めている。来年度以降、利用が増えていくだろうというふうに考えている。

委員

主観ではあるが、DVD に買い替えているとはいっても、動画配信サービスの普及などにより、図書館に限った話ではないが、借りる人は減っていくように思う。

電子図書館については、8月の利用が下がっている。夏休み期間中ということもあると思うが、自宅でも同じように ID を使って利用できる環境があるにもかかわらず下がってしまっている。子供たちの利用については、授業での利用がメインになっているのか。

係長

朝の読書の利用分が下がったのではないかと考えている。

委員

利用者人数は、図書館に来て本を閲覧するだけの人はカウントされていないのか。

係長

今のところは、閲覧のみの利用者数は把握できていない。カウントの仕方を考えていきたい。

委員

この状態だと、単純に利用者が下がっているだけになってしまう。手間にはなるが、来館者を数えて数字を残すことについて検討していただきたい。

4. 協議事業

(1) 令和7年度丹波市立図書館の取組について

①令和7年度丹波市立図書館事業計画（案）について

資料 4

②令和7年度蔵書計画（案）について

資料 5

③令和7年度図書館の開館日について

資料 6

説明：図書館係 係長

委員

（月末整理休館日が月末日から第3木曜日に変更することに伴い）館内整理休館日に行っていた図書館サポーターの活動についてはどのようになるのか。

係長

館内装飾や図書修理の作業については、引き続き館内整理休館日に来ていただくことになるので毎月第3木曜日に来館をお願いします。

薦木委員

来年度、図書館サポーターの活動や図書館職員の研修について具体的な計画があれば聞きたい。

係長

図書館サポーターについては、活動日が図書館の指定する日に限られている状態なので、各図書館サポーターの都合のよいときに来ていただくことができるように考えている。

図書館職員のスキルアップについては、年に2回か全館の職員が集まる日があり、各館の代表者が集まる日が複数回ある。職員に希望を聞いたうえで研修ができるように考えている。

委員

図書館サポーターについて、「図書館サポーター養成講座」を受けた方だけがサポーター活動に参加できるというのはハードルが高いと思う。単発でボランティアを経験してからサポーターに参加するという入口もあるのではないか。「大人の司書体験」という事業を岡山県真庭市立図書館がやっていて人気がある。

係長

検討したい。

委員

ユニバーサルデザインについての意見ですが、図書館でこうしてくださいなど書いてある掲示物が、障がいのある方には読めないのではないかと思います。ルビを付けるなどの工夫をはいかがでしょうか。

係長

案内表示が不十分であると職員も理解しており、来年度少しずつ変えていきたいと思っている。「やさしい日本語」表示の取り組みも始まっているので、どなたにも読みやすい館内表示を心がけていきたい。

会長

学校向けの電子図書だが、ふるさと寄付金から財源を付けるので余分に予算を付けるということか。学校との連携で学校の要望も聞いているのか。

係長

来年度以降、ふるさと寄附金を充当する学校用の何人でも同時に読み放題利用できる電子図書を、授業で使ってみた感想など学校の意見を聞き、学校で利用しやすいものに入れ替えていきたいと考えている。

委員

小学校では、電子図書については職員がまず使ってみるというようなことはあったが、まだ

学校全体には浸透していないように感じている。紙の書籍については、山南図書館で団体貸出しを利用しており、各学年で図書館の図書を借りて利用している。

委員

中学校では、朝学校に来たらタブレットを持つところから始まるので、朝読の時間にタブレットを使って電子図書を閲覧している事例がある。来年度は図書館の充実事業が始まるので、学校単体としても充実させたいと思っている。

委員

学校図書館の充実事業について、わかる範囲でお答えいただきたい。予算が1校あたり300万円とかなり大きい、だれがどう手を動かすのか。市立図書館が連携することはあるのか。

課長

まずは事業に取り組む学校を6校程度選定し、1校あたり300万円をかけて学校図書館を整備する。市立図書館の各館と学校で連携できることはやっていきたい。図書や学校図書館で使用する物品の購入についてもアドバイスができればよいと思う。いずれにしても、学校図書館と市立図書館の連携はやっていかなければならないので、積極的に関わっていきたい。

委員

コミュニティスクールや地域学校協働活動とうまく連携できたら、マンパワーの面も解決できるのではと思う。

課長

地域学校協働活動については、全学校の半分しか導入されていない。学校と地域がつながっていくためのきっかけになるとよいと考えている。

会長

以上について承認でよい。

全員

異議なし。

4. 協議事業

(2) 「丹波市立図書館ビジョン（第2次丹波市立図書館のあり方）」策定について

①市民ワークショップ「市民協働で運営するみんなの図書館」グループワークで出たご意見について

資料7

②二十歳のつどい実行委員・ヒアリング結果について

資料8

③前回の図書館協議会～市民ワークショップ意見シートで寄せられた意見に対する回答について

資料9

④「丹波市図書館のビジョン（第2次丹波市立図書館のあり方）」最終案について資料10

委員

図書館ビジョンP6の施策4、子どもの読書活動推進会議の開催について「第1次丹波市立図書館のあり方」で設定されていた短期目標の進捗はどうか。また「子どもの読書活動推進会議」の状況はどうか。

課長

正直なところ、この会議は開かれていない。元々は「子ども読書活動推進計画」を策定する際に開かれたものであり、その後については進捗管理ができていない。

読み聞かせやブックトークなどを学校連携として学校へ出張して行っている。

委員

アンケート調査について丁寧にやっていただいているが、単純集計になっているので、年代ごと、性別ごとに整理しておく方がよい。クロス分析、単純集計を纏めた資料はホームページ上で公開する予定はあるのか。

利用状況の項目だけでも年代ごと性別ごとで見ておくと、一つの視点としてわかりやすいのではないか。

係長

今後整理する。

委員

課題整理について、学校司書が配置されておらず、学校図書館の運営が十分でない中、学校図書館の連携が必要になっているという事実を、学校図書館の現状を知ってもらう手がかりとして書いてもらうのはどうか。

課長

策定の経過で、学校図書館がどうあるべきかの議論はされてきていないので、運営が不十分であるということや、適切な運営ができていないということを書くのは難しい。

委員

不十分と書く必要はない。課題があるということを書くのはどうか。

課長

課題があることは把握しているが、その点に関して十分に議論ができていない。表現として、連携を深めていくということしていきたい。

委員

了解した。

委員

船城小学校で行われた基調講演後の意見交換では、学校司書が大事だという話になった。

課長

策定過程で、何が課題であるか学校や教育委員会の学校教育課と意見を交わしたことがない。学校側が何を課題としているか、議論が尽くされていない。これから連携を深める中でお手伝いはしていきたいと思う。

委員

図書館協議会の中にも学校代表の先生がいらっしゃる。また、昨年 9 月に提出した請願も採択されている。学校図書館に司書がないことは、課題として議会で請願が通ったものと理解していたが。また市民から意見として出たことなので、事実として書けばよいのでは。

会長

課題としては認識しているが、図書館としては、学校図書館の運営が不十分であるとは言いつらいというのはあると思う。

委員

基本理念の「市民に寄り添い」は漢字がよいのか。やさしい日本語の観点からも、検討してほしい。全体的にはこれまでよりわかりやすくなっている。

1 ページ目の三段落目、赤字の部分で「多様な主体の～」の文章は、どうとらえたらよいのか。

課長

これから整理をする必要はあるが、何より言いたいのは最後の一文で「市民に親しみのある図書館運営」をめざしたいということ。これをするために、色々な人により協働で運営することが、前文で示されている。学校図書館との連携、市内の社会教育施設との連携した取り組みというのは、図書館単独ではなく、他の施設と連携することが、親しみのある図書館につながるのではないかと考えて書いた。わかりにくいようであれば、改めて考える。

委員

学校図書館と公立図書館との連携、他の団体との連携が一番の課題になっている気がする。

課長

表現については教育基本振興計画から引用しているので、一旦このままにさせていただきたい。ただ、課題や連携の方法については、今後具体的な行動として起こしていきたい。

委員

了解した。

委員

計画内容を検討した方の名簿掲載はどうか。

課長

策定メンバーの名簿は掲載させていただきたい。

委員

P27 の第 1 章の上のタイトルが抜けている。図書館法ではないのか。

課長

修正する。

委員

23、24 ページ用語解説について、本文に※はついているのか。

会長

つけた方がわかりやすいのでは。

委員

最初の言葉だけにつけてはどうか。

課長

了解した。他にも、わかりにくいところがあれば教えてほしい。

会長

詳細については事務局で精査し、概ねについては協議会で承認ということでよいか。

全員

異議なし

5. その他

①「丹波市図書館基本計画（子ども読書活動推進計画を含む）」について

説明：課長

委員

図書館協議会委員 1 名の退任にともなう欠員補充は考えているのか。

係長

今のところ考えていない。基本計画策定委員については、2 名以内の委員募集を考えている。

委員

図書館協議会委員には社会教育委員がいないので、社会教育委員に入っていただくのがよいのではないか。また、教育委員が図書館協議会に来られたことがない。委員として入られなくても、様子を見にきてほしいと思う。そのあたりは事務局から声かけをしてもらえるとうれしい。

課長

社会教育委員の会議で議題にあげるか、補充については検討する。

教育委員会の教育委員については、毎年教育団体との交流会や懇談会を年に一回はされている。ただ、なかなか日程があわないので、積極的に出向くのは難しい現状はある。

図書館協議会として、教育委員に面談したい場合は、そういった機会を調整したい。

会長

私も、教育委員さんと面談する機会があってもよいのではないかと思います。会長としてお願いするということで、よろしいか。

全員

異議なし

会長

以上をもって、令和 6 年度第三回の図書館協議会を終了する。